

令和7年度第2回霧島市公立学校等あり方検討委員会 会議内容

- 1 日 時 令和8年1月21日（水）午後2時00分から午後3時57分まで
- 2 場 所 霧島市国分シビックセンター行政庁舎本館3階【庁議室】
- 3 出席者 委員15人 山神委員、今吉委員、川井田委員、塚田委員、山田委員、林委員、  
富永委員、阿多石委員、吉満委員、小野委員、上之園委員、山下委員、有村委員、河瀬委員、新田委員  
事務局 教育長、教育部長、教育総務課長、学校教育課長、社会教育課長、  
地域政策課長、子育て支援課長、溝辺総合支所長、横川総合支所長、牧園総合支所長、霧島総合支所長、福山総合支所長、学校教育課長補佐（2名）、教育政策グループ長、学事グループ長、安全・保健体育G長、交通政策G長
- 4 公開・非公開の別 一部公開
- 5 傍聴者数 4人（うち報道2社）
- 6 協議事項 霧島市の現状について  
小規模校のメリット・デメリット 外
- 7 主な質疑
  - Q 休校となった学校は、後年に1名でも通学の希望があった場合は開校するという意味で休校と位置付けているのか。
  - A 現在の方針では学級数が1学級以下になった場合に休校としており、1名の場合に開校することはない。休校の位置付けについては、本検討委員会のなかで併せて議論を行っていただきたい。
  
  - Q 昨年5月に牧園地区から陳情書が提出され、同年8月に議会で採択されている。この陳情に関する予算措置の状況はどうか。
  - A 要望に対応できるよう努めている。具体的には、スクールバスについては新年度に購入できるよう予算要求を行い、運転手についても、ハローワークを通じて1名募集中である。
  
  - Q コミュニティ・スクールで統廃合に関する意見はあったか。
  - A 特段の意見はなかった。
  
  - Q 鹿児島県は、県独自の学校の望ましい適正規模の基準を示していないのか。
  - A 示していない。

Q 国の基準によらず、本市独自の考え方で基準を設けることは可能か。

A 可能である。

Q 本検討委員会での私たちの発言は、どこまで本市の今後の学校のあり方に影響するか。

A 色々な立場の方々から意見を出していただき、事務局で案を作りたい。具体的な統廃合の組合せを定めるものではない。

Q 令和13年度まで児童生徒数を見込んでいるが、それより先ではもっと減ると思う。シミュレーションに至るまでを委員で深く検討した方がいいのでは。

A 本市の出生数は、平成18年度の1,301人から令和6年度の791人と39.2%減少している。現在0歳、1歳の子供が現在の居住地に住み続けるという仮定でシミュレーションしている点を含め、今後どうあるべきかを考えていかなければならない。

Q 合併して20年立つが、旧市町を超える考えはないか。

A 国分地区の塚脇小学校は福山地区の牧之原小学校に統廃合する。また、塚脇小学校からは福山地区の牧之原中学校に通学している。

Q いつ頃をめどに学校規模の適正化に取り組むのか。

A 行政だけではなく地域の方々と一緒にどうあるべきかを検討し、令和8年度までに適正化の考え方についてまとめたい。現時点まではいつまでに適正化するとは考えていない。

Q 大規模校のメリットやデメリットを示してほしい。それで小規模校のことが見えてくる面もある。

A 準備する。

Q 大規模校では不登校が多いと聞いている。

A 率としては小規模校の方が大きい。人間関係の固定化が影響しているものとする。

Q 長期欠席者のケアはどうしているか。また、長期欠席者は固定化されているのか。

A 各学校では家庭と連携して対応しているほか、教育委員会としても学校・家庭と連携して迅速な改善に向けて取り組んでいる。長期欠席者はある程度固定化されている現状がある。

## 8 主な意見

- 本校は生徒数が少なく、部活動の種類が限定されるほか、技術家庭の正規職員が配置されていないため、臨時免許状を取得している教師が授業を行っている。
- メリットやデメリットは相反する部分があると思う。また、小規模校では組織力の点で苦しい状況が発生すると思う。加えて、多様性が求められている昨今において、子供達が色々な価値観や考え方に触れる機会が少なくなってしまう。色々な集団で知恵を出し合い、学校運営を行うことが教師にとっても大事なことである。
- 小規模校では、授業準備や校務分掌の業務量が大変多く、教師個人への役割や責任がかなり大きい。また、児童は自己有用感が高められる一方で、人間関係が固定化して逃げ場がない。複式学級でも、上の学年からの威圧的な言動で下の学年が委縮することもある。そのほか、中学校入学時に不安を持つ子供も多い。
- リーダーを務める機会が多くなることはメリットでもあるが、登校の渋りにつながる場合もある。また、固定化した人間関係の中で一旦トラブルが起こると逃げ場がない。小さな暖かい環境の中で人間関係を育むことも大事な一方、グローバル社会を生きる子供たちの事を考えると、幼小の頃から一定の人数の中で教育することも必要だと思う。
- ある地区から、地区の学校を休校や廃校にすると地域がつぶれるので、教育委員会に存続の働きかけを要望されていたが、今では態度が180度変わり、地域から統廃合を求める意見が出た。別の地域では、地域に15名ほど子供がいるが、父兄が中学校入学時のことを考慮して地域外の学校に通わせた結果、地元の学校に通うのは5名ほどのようだ。中高に進んだときに人間関係がどうなるのか、現状が分かれば教えてほしい。
- 末っ子が地域外の大きな高校に通学しているが、毎日楽しそうに言っている。上の子供は地区内の小さな高校に通学しているが、色々な経験をして成長したと感じる。一概にどちらがいいかは分からないが、選択肢が残ることは大事だと思うので、小規模校も残してもらえるとありがたい。
- 地元の小規模校が特認校制度を導入する際、小さな学校で学ばないか、不登校気味の子供達は手厚い指導が受けられる、ということをやっていた。小規模校から中学校に進学した子供たちが生き生きと活動おり、教育の成果を素晴らしいと感じる一方、小規模校での人間関係の固定化が懸念される。他自治体の義務教育学校を視察したし、どれがいいかは分からないが、小規模校のあり方は、地元の意見も挙げた中で話し合わない、表面しか見えていない気がする。
- 実際に地元の学校に通学していない部分については、現実に近い数字を出してほしい。
- 大規模校から小規模校に行く子供も、小規模校から大規模校に行く子供もいる。小規模校で学びたいという思いを持つ子供もいることから、色々な枠組みを考えながら、小規模校の存続意義も併せて考えていけたらいい。

- 児童数の減少は、今後中学校にも影響が及ぶ。地域に学校を残すために、義務教育学校等、知恵を絞っていただきたい。地域にとって学校は一番の宝であり、地域に学校があるという状況はなくしてほしくない。また、通学区域の拡大も予測されるため、スクールバス等の充実も要望したい。
- 地域に対して早めに情報を流してほしい。
- 教育委員会だけではなく市全体の問題と捉え、市全体で連携して人が増える政策をお願いします。学校が1つも減らないことを希望したい。